

- Ⅲ-9 八戸市立市民病院におけるO型緊急輸血の現状
 ○近藤 英史 今 明秀 野田頭 達也
 (八戸市立市民病院 救命救急センター)

- Ⅲ-10 大動脈二尖弁が上行大動脈に及ぼす影響
 ○服部 薫 大徳 和之 皆川 正仁
 鈴木 保之 福井 康三 福田 幾夫
 (弘前大・院医・胸部心臓血管外科学)

- Ⅲ-11 大腸のカルチノイド腫瘍について
 ○笹生俊一
 (八戸赤十字病院臨床検査室)

- Ⅳ-12 塩酸ミノサイクリンによる肝障害が疑われた
 ツツガムシ病の一例
 ○飯田 圭一郎¹ 日沢 裕貴² 西谷 大輔²
 石橋 文佳² 荒木 康光²
 (青森労災病院・研修医¹ 青森労災病院・消化器内科²)

はじめに：以前、直腸に70を越す大小のカルチノイド腫瘍病巣を認める例を経験した。八戸赤十字病院でも、同様に、直腸に60あまりの大小のカルチノイド腫瘍巣を有する例を経験したので、1998年から2014年3月までの八戸赤十字病院での消化管カルチノイド腫瘍例を調べてみた。

結果：カルチノイド腫瘍発生部位は、胃11例、十二指腸6例、虫垂2例、盲腸1例、上行結腸1例、直腸は、神経内分泌腫瘍とした例を含め33例で、直腸に最も多く発生していた。直腸のカルチノイド腫瘍で多発例は、直腸と盲腸に発生をみた1例と近くに2個の腫瘍をみた1例、主病巣周辺に多数の微小病巣を散見した1例、60個を越す大小の病巣を散見した1例の4例であった。多発例と単発例の直腸カルチノイド腫瘍12例を組織学的に検索した。

60を越す大小の病巣を散見した例では、通常みる比較的限局性の大きなカルチノイド腫瘍や小型腫瘍組織が散在性ながら小範囲に集まっている部位、微小病巣が少数集まっている小病巣などからなり、一部で陰窩と腫瘍巣が連続性となっている部位をみた。主病巣周辺に多数の微小病巣を散見した例では、主病巣内腫瘍が陰窩と連続している部位があり、主病巣周辺の微小病巣でも陰窩と連続性となっている部位をみた。単発例でも陰窩と腫瘍巣が連続性となっている部位を認めた例があった。

結論：直腸カルチノイド腫瘍の多くは陰窩内の神経内分泌腫瘍に由来し、時に複数の陰窩の神経内分泌細胞に由来する。